

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 中津商業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月24日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 中津商業高等学校会議室
開催にあたり、「学習成果発表会」をオンラインで視聴した。
- 4 参加者

会長	成瀬 博明	本校同窓会会長
副会長	保母 龍興	本校同窓会副会長
委員	児玉 光弘	地域住民代表、学識経験者
	李 瑾	中京学院大学准教授
	大瀧 國嘉	中津川市立第一中学校長
	柴田 祐希	中津川市定住推進部市民協働課主査
	尾関 星香	中津川市教育委員会事務局幼児教育課主査
	久木 利道	トーキン工業(株) 相談役
	石黒 梨香	本校PTA会長
	名城 仁志	本校PTA副会長
オブザーバー	原 祐一	(欠席)
	森 益基	岐阜県議会議員 (欠席)
学校側	丸山 裕	校長
	丹羽 静	教頭
	松村 勇一	事務長
	兼松 美穂	教務主任
	伊藤 則生	生徒指導部長
	坂本 美和	進路指導部長
	新井 秀行	保健安全部長
	丹羽 浩徳	渉外部長
	若尾 昌彦	商業教育部長
	勝野日菜子	記録

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和5年度 中津商業高校「ふるさと教育」関連事業について説明
「学習成果発表会」をオンラインで視聴
- (2) 令和5年度 自己評価・学校関係者評価
- (3) 令和6年度 学校運営の方針と重点について
 - ・学校運営機構、各種委員会組織について
 - ・教育課程について
 - ・年間行事予定について

各委員より意見

- 意見 1：課題研究は例年良くなっている。もう少しプレゼンテーション能力を高める工夫をすることにより、より一層よくなる。例えば、数字をうまく利用できるとよい。
- 意見 2：若い人はおとなしく、なかなか自分の意見を言ってくれないことが多い。そんな中で本校が行っている課題研究での商品開発や宣伝などは、社会に出た時に非常に役に立つ。今後も食品だけでなく違う業種も入れながら勉強してほしい。
- 意見 3：今回も課題研究発表などを拝見して、高校に来ることに夢があり、高校を卒業してからも夢がある。
- 意見 4：私たちが受けてきた学校教育とは違うという事がよくわかる。生徒の姿や今回の委員会の中でも、変わろうとしている姿勢が目に見える。
- 意見 5：小学校 1 年生からタブレットを使用している生徒が、やがて高校に入学してくる。そう考えると、高校教育もかなり変わってくる。その生徒をどう育てていくかが大事になる。
- 意見 6：昨年度と比較すると発表内容の多様化が進んでおり、テーマが豊富で少人数のグループで発表できていることがすばらしい。商業高校ではあるが、今年度は国際的な取組にも挑戦していて非常によい。
- 意見 7：公開授業における評価について、全教職員で共有できたらさらに学ぶことができる。
- 意見 8：指導要領について、どのように指導方針が変わったのか分かるように記載してほしい。
- 意見 9：「ボランティア活動の大切さを…」という項目の評価が下がったのは、生徒たちの需要が高まったためではないか。
- ⇒ コロナ禍で活動ができていない影響が考えられる。
- 意見 10：生徒のプレゼンテーションについて、様々な工夫がされていた。情報収集や、動画を取り入れながら、生徒たちが一生懸命考えて発信しようとする姿勢に大変感心した。
- 意見 11：学校評価について、授業改善は永遠の課題。生徒が自分で主体的に活動する授業を作っていくべきである。教職員同士の公開授業などを経て、学力向上に繋がる授業改善をしてほしい。
- 意見 12：いじめ・差別について、「本当にいじめや差別が少ないのか」など、情報をキャッチする方法を何か考えるべきである。心のアンケートなどを実施していても、対応できない場合もある。
- 意見 13：課題研究の意義は、市外や市内に地域の魅力を発信していくという事が重要ではあるが、生徒自身が「中津川市っていいな」「地元好きだな」と思える取組となっておりとてもよい。
- 意見 14：読む力を向上させるとあるが、これをピックアップした理由はなぜか。また、どういった事を想定して選んでいるのか。
- ⇒ 高校の教科書や検定問題などは、文章読解力が必要である。そのため読む力を向上させたかと考えている。
- 意見 15：目的やきっかけなど、とても興味深く、先輩を参考にしてテーマを決めたものもあり、こうした成果発表会の場が活かされ、次に繋げている事がよく分かった。
- 意見 16：「より実態に即したアルバイトルールの見直し」というのは、前のアルバイトの実態とどう変わったのか。
- ⇒ 基本的にアルバイトについては家庭の責任で行う方針となった。本校でそのアルバイトが安全かどうかを確認し許可するが、これまでのように長期休業の度に申請することをやめ、1年に1回申請することとした。
- 意見 17：大型商業施設で本校の生徒が商品開発したものを販売できるとよい。もっと大々的に色々なところで販売を行えるとよい。
- 意見 18：課題研究については、とにかく SNS の活用などがすばらしい。こうした授業などで活用する SNS は、普段とは違った視点からツールを考えるよい機会である。また、海外向けの発信も視野にいれている点で、かなり考え方がグローバルに変わってきている。海外からの観光客にインタビューをするのも、英語の上手い下手や通じる通じないというよりも、伝えようと

いう意識や臆せず話すという事が大事。非常によい機会だった。

意見 19：年々、生徒の活動がレベルアップしている。今年度の発表でより進歩したことは、出た課題などを後輩に繋げたいという意見が出た点。今までは反省点だけで終わっていたため、「次の世代に」という考えはとてもよい。

意見 20：企画を進めていくことに関して、数値化するという事が大事。現状の把握や前回との比較、進捗率や達成率などを出すことによって非常にわかりやすく、生徒も数字の感覚というものを身につけていくことができる。この感覚を本校の授業で育ててほしい。

6 会議のまとめ

「学習成果発表会」について、年々プレゼンテーション能力が向上していると評価された一方で、具体的な数字を示すとよいと助言を得た。今後は校外の研究発表にも積極的に参加し、プレゼンテーションの技術を学ばせていきたい。また課題を後輩に引き継ぐことでより深い研究になるとの助言を得た。今後も課題研究のテーマ設定の際、より深い研究が継続的に行えるよう指導していきたい。公開授業における評価を全職員で共有し、授業改善につなげるとともに、ICTを活用してきている世代に対して、より新しい学びができるよう研修や研究をしていく必要がある。生徒が校外で活躍する場面が増えているため、今後も地元企業や自治体と連携しながら、本校の魅力を広く発信していきたい。